

Ⅱ期（一般）

受験 番号	<input type="text"/>	氏 名	<input type="text"/>
	<input type="text"/>		

令和3年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題（9月27日）

[小論文]

2015年に国連総会で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、「目標とターゲットがすべての国、すべての人々、及びすべての部分で満たされるよう、誰一人取り残さない」ということを原則としています。

次の一文を読んで、コロナ後の世界における言語聴覚士の目指す方向性について、可能ならここ数か月以内の読書経験も踏まえつつ、思うところを述べなさい（800~1000字程度）。

「これから到来するコロナ後の世界への道は、いばらの道だ。内向はさらに進んで行くし、自宅に引きこもることが奨励された外出自粛の経験は、新たなニートや中年の引きこもりを生むことになるだろう。そして、内向する中で彼らはゲームやアルコール、度を越した者の中には脱法ドラッグなどに依存する者も現れるかもしれない。悲観的なことばかりを述べることになるが、リモートが常態化していくことになれば、DVなどの問題も顕在化する可能性が出てくる。

コロナ後の世界ではあらゆる局面で格差が広がっていき、経済はシュリンクしていく。内向きの思考の加速によって、稼ぐ力がない人たちが悲惨な状況になっていくことに多くの日本人はあまりに冷たくなっていくし、眼差しを向けようとするかもしれない。

路上生活者、ネットカフェ、無国籍の子どもたち……未来がありながら構造的な格差から抜け出せない次世代の人たちへの支援を行うボランティアたちを、筆者は応援していこうと思っている。」

（佐藤 優『ウイルスと内向の時代』より抜粋）